

## 感染症・予防接種レター (第 112 号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

三沢あき子 (委員長) 久保田恵巳 (副委員長) 庄司 健介 渡邊 久美 並木由美江  
田中 敏博 後藤 研誠 岡田 賢司 (アドバイザー) 多屋 馨子 (アドバイザー)

## 新生児のエコーウイルス 11 感染症について

庄司 健介

エンテロウイルス属はピコルナウイルス科に属するウイルス群で、エンベロープを持たない一本鎖 RNA ウイルスである。エコーウイルス、コクサッキーウイルスなどさまざまな遺伝子型が存在し、手足口病、ヘルパンギーナ、胃腸炎などの比較的軽症かつ一般的な感染症から、無菌性髄膜炎、心筋炎などの重症感染症まで、幅広い病像を示す。特に免疫が未熟な新生児期では重症化しやすいことが知られているが、今回はエコーウイルス 11 による新生児重症感染症について取り上げる。2022 年から 2023 年にかけてフランス、イタリア、スペイン、スウェーデンなどのヨーロッパ各国を中心に、エコーウイルス 11 の新生児や早期乳児の重症感染症の発生が報告されており、世界保健機関 (WHO) から注意喚起が出されていた<sup>1)</sup>。これらの報告によると、エコーウイルス 11 に感染した新生児の一部では肝炎、髄膜脳炎、多臓器不全などの病像を呈し、致命的となった症例も多数報告されている。筆者の所属施設では 2024 年になり、エコーウイルス 11 による

新生児の重症感染症を相次いで経験した。そこで詳細なウイルス学的な精査を行ったところ、それが以前ヨーロッパで報告されていた new lineage 1 という病原性の強い株であったことを突き止め、国立感染症研究所の Infectious Agents Surveillance Report (病原微生物検出情報, IASR) や Eurosurveillance などに報告を行った<sup>2,3)</sup>。その後神戸や埼玉などの国内の他の施設からも同様の報告がなされ、一部の施設だけではなく、全国的にエコーウイルス 11 感染症が増加している状況であることがわかってきた<sup>4,5)</sup>。実際に国立感染症研究所の病原体サーベイランスの結果をみると、2024 年になってエコーウイルス 11 の報告が急増していることがわかる (図 1)<sup>6)</sup>。このような状況を鑑みて、2024 年 12 月には日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会より新生児におけるエコーウイルス 11 による重症感染症に関する注意喚起が発出された<sup>7)</sup>。また、2025 年 2 月には厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課 よりエコーウイルス 11 型 (E-11) 感染

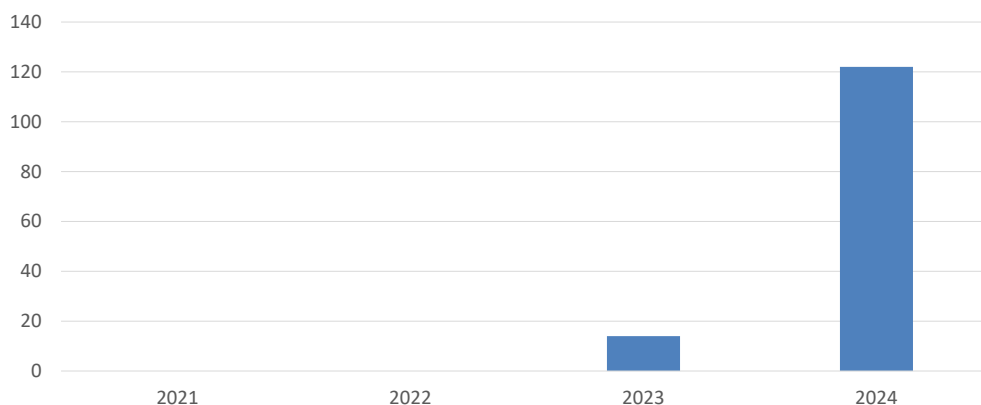


図 1 エコーウイルス 11 感染症報告数

国立感染症研究所。病原微生物検出情報。地衛研からの報告 [病原体個票による]。年別 (自動更新) エンテロウイルス (2) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/511-surveillance/iasr/tables/1493-iasrtv.html> を元に作成

表1 エコーウイルス11感染症の報告基準

## 暫定症例適宜

- ①生後3か月以下の乳児
- ②重症感染症（敗血症※、多臓器不全、心筋炎、急性肝不全、急性腎不全、血球貪食性リンパ球症、髄膜炎、播種性血管内凝固症候群（DIC）、高フェリチン血症等）があり、全身管理目的で入院した者 ※敗血症の基準を満たさない場合でも、活気不良、傾眠、チアノーゼ、無呼吸、網状皮斑、Capillary Refill Time（CRT）延長等の症状を呈する場合は含める
- ③病歴、身体所見、接触歴等から重症エンテロウイルス感染症を疑う場合（多項目遺伝子関連検査（FilmArray<sup>®</sup>、SpotFire<sup>®</sup>等）を導入している医療機関では、エンテロウイルス/ライノウイルスが検出された場合）なお、検査の結果、エンテロウイルス以外の重症ウイルス感染症、重症感染症と診断された場合は除外することとする。

令和7年2月6日以降、令和8年3月31日まで（状況により延長または短縮もあり得る）に診断されたE-11感染症が疑われる入院例のうち、暫定症例定義の全てを満たすものとする

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課 エコーウイルス11型（E-11）感染症の実態把握について（協力依頼）。<https://www.mhlw.go.jp/content/001400326.pdf>

症の実態把握について（協力依頼）という事務連絡が発出され<sup>8)</sup>、これにより全国的な調査が実施されることになった。この調査では表1の基準を満たす症例を診療した場合、最寄りの保健所に報告を行うことになっている。このような調査を通じて疫学や臨床症状、予後などを把握することが今後の対策を考える上で非常に重要になってくるため当該症例を診療した場合は是非ご協力いただきたい。

新生児のエコーウイルス11の感染経路としては周囲からの接触感染、糞口感染、飛沫感染のほか、妊娠中の胎内感染の可能性も示唆されている<sup>9)</sup>。エコーウイルスを含むエンテロウイルス属はエンベロープを持たず、アルコール消毒に対して耐性傾向を示すため、その予防においては流水+石鹸での手指衛生の実施が重要である。ただし、エコーウイルスは無症候性感染症も来しうするため、症状がある人だけが気をつけられればよいということにもならないのが難しいところである。現状では、発熱や消化器症状などがある場合はできるだけ新生児に触らない、症状のあるなしに関わらず、新生児に触る前には流水+石鹸での手指衛生をできる限りしっかりと実施する、といった基本的な感染対策を実施することが重要である。

今のところエコーウイルス11に対する有効な抗ウイルス薬はなく、支持的療法を行うしかないが、その支持的療法についてもどのような対応がベストなのかについてはわかっておらず、施設ごとに対応しているのが現状である。今後の治療の標準化が望まれる。

## 文 献

- 1) “Enterovirus-Echovirus 11 Infection - the European

Region Disease Outbreak News16 June 2023”.  
<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2023-DON474>

- 2) 松井俊大, 幾瀬 樹, 庄司健介, 他. エンテロウイルスによる新生児重症感染症, IASR 46: 14-16, 2025.
- 3) Ikuse T, Matsui T, Shoji K, et al. Neonatal acute liver failure cases with echovirus 11 infections, Japan, August to November 2024. Euro Surveill 2025; 30 (1): 24008224.
- 4) 久保萌加, 松原康策, 磯目賢一, 他. 2024年に神戸市内の2つの医療機関で経験したエコーウイルス11による新生児期、乳児期早期感染症例. IASR 46: 38-41, 2025.
- 5) Ohnishi T, Sato R, Tanaka R, et al. Endemic Echovirus 11 Meningitis in Young Infants in Japan, Autumn 2024. Pediatr Infect Dis J 2025 Feb 3. doi: 10.1097/INF.0000000000004753. Online ahead of print.
- 6) 国立感染症研究所. “病原微生物検出情報. 地衛研からの報告 [病原体個票による]. 年別 (自動更新) エンテロウイルス (2)” <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/511-surveillance/iasr/tables/1493-iasrtv.html>
- 7) 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会. “新生児におけるエコーウイルス11による重症感染症に関する注意喚起”. <https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20241211echovirus.pdf>
- 8) 厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課 “エコーウイルス11型（E-11）感染症の実態把握について（協力依頼）”. <https://www.mhlw.go.jp/content/001400326.pdf>
- 9) Hirade T, Abe Y, Ito S, et al. Congenital Echovirus 11 Infection in a Neonate. Pediatr Infect Dis J 2023; 42: 1002-1006.